

東京産のピッグスキン

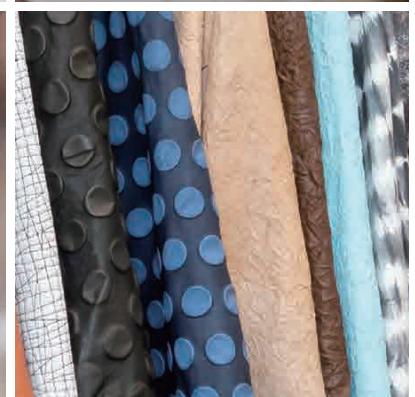
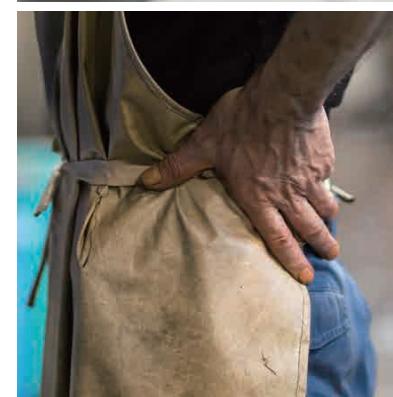
TOKYO LEATHER PIGSKIN

2023

As pigskin has historically been eaten as part of pork in most go the world, Tokyo has been a global leader in pigskin-related technological development, where leather manufacturers have developed novel pigskin items such as softer leather, suede, non-chrome tanned leather, and various finishing methods. Tokyo prides itself on producing and supplying the world-class quality pigskin still today.

特集

ピッグスキンでものづくり



TOKYO LEATHER PIGSKIN 2023 東京都／東京製革業産地振興協議会

東京レザーファッションフェア(ビギーズ・スペシャル)に係る
都内皮革鞣製業の広報・宣伝業務

JFW ジャパン・クリエーション 2023

主催：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構

JFW テキスタイル事業運営委員会

後援：経済産業省、独立行政法人中小企業基盤整備機構、他

産業労働局商工部 経営支援課
2022年11月発行
登録番号(4)118

R70 古紙配合70%の再生紙を使用しています。
環境に配慮したインキを使用しています。

革が創られる街 東京・すみだ

東京産の皮革『ピッグスキン』その多くはスカイツリーのある街『墨田区』で生産されています



ピッグスキンって何？

豚肉を加工したあとに残った皮を有効活用して作られたのがピッグスキン（豚革）です。

骨や皮はコラーゲンやゼラチン、油脂などの材料になります。

ピッグスキンは3つで1組の毛穴が特徴で、通気性や耐摩耗性に優れているので靴の内側などによく使われます。多様な加工でカラフルな革に仕上げたり、スエードにしたものも人気です。

豚革の原料はどこで手に入るの？

関東近隣から豚が食肉市場（屠場）に集まり、お肉に加工されます。皮革の製造業者（タンナー）は、この市場から原料となる原皮を仕入れます。国内や海外に出荷される際は専門業者の手によって保管するために塩漬けにされて運ばれます。

牛革のほうが高級なんですか？

牛と豚では飼育期間やそれにかかるコストも違います。豚は6ヶ月ほどの短期育成で皮が小さく柔らかめ、牛は30ヶ月程度の長期育成で皮が固く丈夫になります。大きさや厚さが違うため使い方の用途も変わります。昔からの習慣もあり、牛革の方が高級と思われますが、豚革には牛革に負けない価値があり、特性に応じて使い分けられています。海外では希少な高級素材として扱われています。

なぜ革と皮があるの？

「皮」は動物から剥いた生の状態のものを指します。そしてその「皮」をいろいろな処理や薬品によって化学変化させ、腐りにくくしたものを「革」と呼びます。LEATHER（革）と SKIN（皮）の性質の違いもありますが、昔から使われているので本誌ではそのままピッグスキンと呼びます。

主に何に使われているの？

通気性がよく丈夫で柔らかいことから靴の裏革、衣料、カバンなど様々な製品に使われてきました。軽さや薄さ、多様な加工のバリエーションもあり、ファッション素材としても用いられています。近年では、洗える革や撥水加工が施された革など、水濡れにも強い革が好評、毎年新しい技術で進化しています。

革を使うのは動物がかわいそうではないの？

私たちが肉を食べ続けるかぎり、皮はからず残ります。皮革産業はこの皮を無駄なく利用していきます。かわいそうと思う優しい気持ちで、革製品を大切に扱い、長くご愛用していただければと考えます。

TOKYO LEATHER PIGSKIN 2023 -

東京の特産品

「ピッグスキン（豚革）」ってご存知ですか？

このピッグスキンは豚肉の副産物を活用して東京都墨田区を中心とした地域で昔から作られています。
革づくりには大量の水が必要なため荒川、隅田川、旧中川に囲まれた水辺に恵まれたこの地域が生産に適していました。

材料から全て国内で調達できる唯一の素材 東京都内で加工される
ピッグスキンは東京の特産品です。
ぜひこの冊子を通じて 知っていただけると嬉しいです。



Brand Interview

Selieu

田口 朋子

自然の恵みに感謝し
素材の魅力を最大限
引き出すクリエイティブ



—ささやかな自然の美を表現する「Selieu」。可憐なデザインが目をひきます。いまでは有名百貨店でポップアップイベントを行うなど人気ジョリーブランドへと成長しました。ブランドのアイコン的存在、ピッグスキンを使いはじめたのは、どんなきっかけだったのでしょうか。デザイナー田口朋子さんにお話しを伺いました。

田口さん 前職は空間設計をしていたのですが、パソコンで設計の作業をしたあとは、すべて職人さんをはじめ、現場に任せから最後まで、自分の手の中で行えるものづくりに興味が出てきました。材料の仕入れ・製作からお客様に直接お届けすることまでトライしたくなつて、もともとつくることが好きだったので、まずは布地でコサージュからつくりはじめました。

制作からお客さまに直接お届けすることまでトライしたくなつて、もともとつくることが好きだったので、まずは布地でコサージュからつくりはじめました。ものづくりははじめて理解いだくと、愛着を深めにくつってみると、とても好評でした。ピッグスキンの滑らかな質感、加工のしやすさ、薄くて丈夫な特長が気に入つて。使いやすく扱いやすいので、次第にメインの素材として使うようになりました。



—手芸用品の問屋や小売店が多いことで知られるエリア、浅草橋にベースを買いに出かけ、ふと店頭で革の端切れを見つけたことがピッグスキンとの出会いだったのだとか。田口さんは手にとってみると、意外と柔らかくて感激しました。レザーは切りっぱなしでいいので端の処理がしやすく、きれいに仕上がるのもうれしい。つくってみると、とても好評でした。ピッグスキンの滑らかな質感、加工のしやすさ、薄くて丈夫な特長が気に入つて。使いやすく扱いやすいので、次第にメインの素材として使うようになりました。



副産物であり、個体差もあるピッグスキンも同様ですよね。そんな素材同士の持ち味が響き合いで、より層サステナブルな魅力が際立ちます。

づくりをしていることに驚く方もいらっしゃいますね。同じ東京都内でも案外わからないことって多いですが、だからこそ、ご理解いただく、愛着を深めてください。

田口さん ワークショップでは、アップイベントやワークショップで感じたユーチャーの皆さまの反応はいかがでしょうか?

加工前のピッグスキンを使用し用するというこれまでになかった発想は革新的ですが、ボップアップエリートにピッグスキンを使つてください。

反応はいかがでしょうか?

田口さん ワークショップでは革皮を有効活用していることをご存じなかつた方や、墨田区で革依頼も増えていたのです。

—現在、田口さんは世田谷区内のアトリエを拠点に活動。地産地消のアクセサリーとしてメディアに数多く取り上げられています。サステナブルであることを注目も高まり、リビーターのお客さまからリペアの依頼も増えているのだそうです。

田口さん 長く愛用いただけるよう、メンテナンスは積極的に対応しています。オーダーメイドについてもご相談が増え、色彩豊かなピッグスキンの中から好みのカラーをお選びいただけ、おひとりおひとりにあつたご提案をしています。

—循環型のものづくりであるピッグスキン。その可能性をさ



らに広げ、進化させている田口さんのクリエイティブにますます期待が寄せられます。



Selieu(セリュ) Designer

田口 朋子
自分を表現する方法として2014年
Selieuをスタート。
皮革産業の振興・発展の為のワーク
ショップや企画監修も行っている。



HP : <https://selieu.com/>

Brand Interview

レン
REN

柳本 大

ふつくらと柔らかい
ピッグスキン。
開発までのエピソード



何度もやり取りをしました。
今までにはなかった、ふっくら
と柔らかい手触りで、おまけに
繊維層が緻密なのに軽い。ピッ
グスキンの強みを最大限に發揮
した。独自の素材が開発できま
した。豚特有的毛穴も自立たず
にシフト。レディースへとがらり
豚革なの?」と疑う方もいたほ
どです。

この素材の魅力を最大限に引
き出すために、芯材や裏地、金
具なども極力付けないデザイン
を初めて見た人が、「これは本当に
豚革なの?」と感動するほどです。

確かにナチュラル系にとど
まらない、幅広い方々から人気
を博していると感じます。ただ、
一枚革で仕立てた際には、裏側
が毛羽立つたりはしないのです
か?

柳本さん 実は裏面
の毛羽立ちがほとん
どなく裏地が不要な
ので圧倒的な軽量化
につながりました。
牛革とも異なる独特
な繊維構造を知って
いくと、本当に魅力
的な素材だと思えま
すよ。

ただ素上げ仕上げの
場合にはどうして
も避けられないキ
ズは生じてしまうの
で、スタッフが丁寧
な接客で皆さんにお
伝えしています。



「販売スタッフの力が重要と
いうことです。販売先が直営
店へとシフトしてきたそうですが、
これがからの展開などをお聞
かせください。」



株式会社バスデムシャット代表取締役



柳本 大
2012年東京・蔵前に直営ショップ【REN】をオープン。
2022年現在、全国に直営4店舗を展開中。

株式会社バスデムシャット
台東区蔵前4-13-4



<https://ren-webshop.com/>

「東京のブルックリン」と称される東京・蔵前に2012年「REN」が直営ショップをオープン。ピッグスキンをオーブン。ピッグスキンを使つた、軽やかでシンプルなバッグ・革小物ブランドとして、広い世代に知られる存在です。REN代表の柳本大さんに、ブランド立ち上げまでや、ピッグスキンとの出会いのエピソードをお聞きしました。

柳本さん 10代の頃からファションが大好きで、既製品を買うよりも、自分で服を解体してリメイクを楽しむ若者でした。高校を卒業後は森沢デザイン研究所に入學し、洋服全般について基礎から学びました。ある日、卒業制作のために、日暮里織維街で服地店を見て回った際に、たまたま入ったのが革を扱うショップで生地とは違う革の世界にすっかり魅了されました。



——ピッグスキンを取り入れたのはどんなタイミングだったのですか?

その店には、虎の頭がついている毛皮とかもあって…。店主も色々教えてくれ、「革って面白いんだ」と刺激を受けたのを感じて、革を買って手縫い本格的に「からバッゲ」作りの手ほどきを受けます。数年後に独立し、20代半ばで「REN」を立ち上げると、牛革を使った、メンズのバッグで展示会に初出展します。



——たしかに、ピッグスキンは、靴やバッグの裏地用途で思い浮かびますね。それをメイン素材に据えた理由とは? 柳本さん 当時のピッグスキンといえば、床(ところ)面は固さがあり、銀面も傷だらけでバッグにするには難しかった。そこで墨田区にあるタンナー(革なめし工場)さんにお願いして、自分が納得できる革質を求めていました。

